

経済産業大臣賞（社会人基礎力大賞）**関東地区代表 創価大学 経済学部****男女が共に働き、共に育む社会へ～学生の学生による
学生のための情報サイト、イクメン通信簿プロジェクト～**

男性の育児参加による女性の社会進出の活性化をテーマに活動を行い、各企業の取り組みを可視化したサイトを作成・公開した。男性の育児参加の低さが女性の社会進出を妨げる要因の一つである。情報公開している企業が少ないため、私たちは原因を探るべく、企業・行政・NPO法人の計43名にインタビューを行った。その結果、男性社員としては負担が大きく昇進のことを考えると制度を利用するリスクが高い。一方で、経営者は負担が大きく社員に取得させる動機が弱い構図があると分かった。その解決策として考え抜き、上記の多数の外部協力者の応援を受け、東証1部上場1812社の男性の育児参加状況を通信簿という形で評価し、HP作成・公開を行った。

社会人基礎力準大賞**近畿地区代表 大阪工業大学 知的財産学部****イクメン商品で自社ブランドを立ち上げる！
～知財力を活かしたマーケティング戦略の展開～**

大阪の中小企業から相談を受けた。新たな挑戦として自社ブランドを立ち上げるべく商品開発を開始したが、必要となる知的財産の知識と経験がないという。そこで、学生達が大学で学んだ知識をもとに、知的財産活動のサポートを行うこととなった。講義で学ぶも、その実践は難しい。教員に相談しながら調査や活用提案を行った。商標登録や特許出願を経て商品の発売も確定したが、市場開拓や商品のシリーズ展開などさらなる課題が提示された。活動意欲の低下から解散の危機に直面したが、社長の商品への情熱を共有し活動の意義を再確認することで新たな決意で立ち上がった。メンバーの拡大にも成功し、展示会への出展など活動はさらに本格化している。



社会人基礎力準大賞

九州・沖縄地区代表 福岡女学院大学 人文学部

大学生の授業改革 近頃問題となっている大学の授業 …地方女子大生がアクティブラーニングの授業改善へ挑む

私たちには2つの課題があった。一つは産学連携事業、もう一つは本学のキャリア形成の授業運営。3年次までの私たちなら間違いなく産学連携事業を選んでいただろうが、“学内の授業運営”という課題を自ら選択した。失敗せずに授業運営を行えるのか？ 私たちは成長することができるのか？ 多くの葛藤の中、受講生と共に授業を作り上げていくことの大切さに気づく。次々に直面する問題をチームで解決し、受講生が主体的に学ぶことができる授業を目指した。最初は小さな課題だと思っていた授業運営。実は国の教育改革に繋がる大きな課題であった。



北海道・東北地区代表 石巻専修大学 経済学部

シャインズシャドウ ～被災者を支える大きな影～

私達は東日本大震災最大の被災地にある唯一の大学の学生として、震災が起きた年から復興支援を続けています。今年度は『シャドウズシャイン』というテーマを掲げ、被災者を支える大きな影になり、1歩ずつ復興に進んでいこうと活動しています。震災を風化させないためにも私達が被災地の現状を発信し、みなさんの防災意識にも繋がって頂ければ嬉しいと考えています。経営学のゼミナールと復興支援は繋がりのない活動のように思えますが、起業家活動の「事業機会の発見」を被災者ニーズに置き換え活動をしています。



関東地区代表 城西大学 経済学部

目指せ地域活性化！！

～カップラーメン商品開発を通しての社会人基礎力の育成～

本ゼミナールではプロジェクトの企画・実行を通して、学士力および社会人基礎力・経験の向上に日々努力しています。今回、私たちは学校の地元である坂戸市周辺で栽培されている「国産小麦のハナマンテン」や「坂戸ルーコラ」などの地元食材や、地元特産品の「弓削多醤油」などを使用し、坂戸市推奨の「葉酸」を練り込んだ健康志向のカップラーメンの商品開発を行っています。7人のメンバーが学生主体となってカップラーメンの商品開発を行い、企業や市役所などとの「企画」「交渉」「販売」「広報活動」などのさまざまな活動を通して地域活性化を目指しています。



中部地区代表 中京大学 総合政策学部

地元和菓子店との産学連携プロジェクトを通じた社会人基礎力育成の取組み

当学部実践科目の社会人基礎力講座という授業において、学生の社会人基礎力向上と地元和菓子店の新店舗開設プラン提案という2つのプロジェクトに取組んだ。社会人基礎力向上の取組みでは、チーム単位で課題発見・改善に挑戦して能力向上を図った。新店舗開設提案には、学んだ経営学の知識を活用したビジネスプランや、裏付け調査を踏まえた学生目線での新商品や企画を盛り込んだ。結果として、学生提案は同社社長に採用され、小集団活動とOJTを通して学生の課題発見力・問題解決力が鍛えられ、主体性や規律性等の能力が向上した。



中国・四国地区代表 広島工業大学 工学部

被災者の安らぎの場を創る

平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、仮設住宅などに住んでいるお年寄りの方が孤独死している問題が起きている。私たちは孤独死を少しでもなくし、住んでいる方が孤独や不安を感じない復興住宅(それぞれが独立した専用の住居と共用スペースを持ち、生活の一部を共有化する合理的な住まい)を提案する活動をしている。この活動を通じて、チームで取り組み、問題を発見し解決するなかで、自分達の成長のきっかけとなっている。また、社会貢献に通ずる活動になっていると考える。

